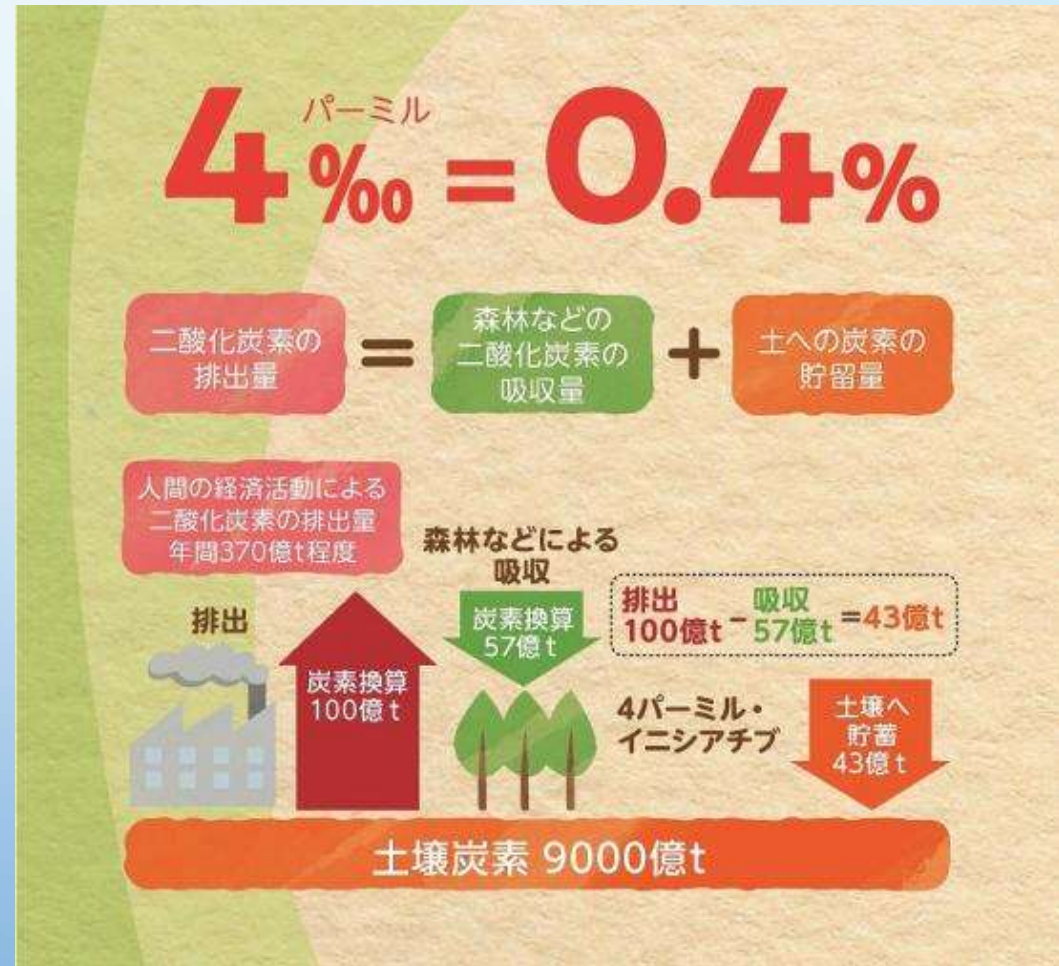


4パーミル・イニシアチブとは

4パーミルイニシアチブとは、2015年に行われた気候変動枠組み条約第21回締約国会議(COP21)の際にフランス政府主導で始まり、「もしも全世界の土壤中に存在する炭素の量を毎年4パーミル(4/1000)ずつ増やすことができたなら、大気CO2の増加量をゼロに抑えることができる」という計算に基づき、土壌への炭素貯留を増やす活動を推進しようとする国際的な取り組みのことを言います。

4パーミル・イニシアチブについて／山梨県の農畜水産物ブランド「おいしい未来へやまなし」(pref.yamanashi.jp)



- **山梨県**では、4パーミル・イニシアチブの取り組みとして、まず、**県の主要農産物である果物に着目しました。**
- **モモやブドウなどの果樹園**では、冬に枝などを切る剪定を行います。その際に発生する剪定枝には、植物の光合成によって炭素が貯蓄されているので、剪定枝を燃やすと、炭素が酸素と結合して二酸化炭素になり、大気中に放出されます。
- しかし、**剪定枝を炭にすることで二酸化炭素の発生を減らすことができるだけでなく、微生物などによる分解がされにくくなります。**その炭を畑にまくことで半永久的に炭素を土壌中に留めることができ、大気中の二酸化炭素の増加量を抑えることにつながります。